

小学生のキャリア形成に関する学級活動の役割

横江 信一*

Role of the Class activity about the Carrier Formation of the Primary SchoolChild

Shinichi YOKOE*

**Department of Human Education, Faculty of Human Studies,
Ishinomaki Senshu University, Ishinomaki 986-8580*

1. はじめに

キャリア教育の充実が叫ばれるようになって久しい。特に、2004年1月にまとめられたキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告『児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために』において、小学校段階から学校のエデュケーション活動全体を通して行うキャリア教育の推進が提唱された。しかし、その後2008年に告示された学習指導要領では、キャリア教育に関して限定的な記述が盛り込まれるにとどまっていた。

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（2011年1月答申）では、キャリア教育の理念が浸透してきている一方で、職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか。社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか。職業を通じて未来の社会を作り上げていくという視点に乏しく、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか。将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか、という指摘がなされてきた。

このような経緯の中で、2017年に告示された小学校学習指導要領（以下、新学習指導要領）では、キャリア教育を重視する方向で、記述が大きく変化している。総則において「キャリア教育の充実」という文言まで盛り込まれ、特別活動を「要」としたキャリア教育の充実が強調されたのである。

キャリア教育の「要」と位置づけられた特別活動に関する記述が、2008年版とどこがどう変わっ

たのかを整理するとともに、今後のキャリア教育の在り方について考察する必要がある。また、小学校に学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」という枠組みが新設され、小・中・高等学校の系統的・継続的・一貫的な取組が行えるようになったことに対して期待する声がある一方で、小学校では、どのような学習・指導を行えばよいのかが課題となっている。

2. 小学校におけるキャリア教育の取組を踏まえた課題整理

我が国におけるキャリア教育という用語の公文書における最初の使用は、1999年の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」に見ることができる。同答申では、「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育（望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育）を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」¹⁾とキャリア教育を定義付け、その実施の必要性を示している。しかし、この答申の内容は、進路を選択することに重点が置かれていると解釈されたため、教育現場においては勤労観・職業観の育成に焦点が絞られ、社会的・職業的自立のために必要な能力の育成が軽視されるという状況を生み出した。また、進路の選択は小学校では関わりが薄いものと捉えられ、教育活動展開への機運は熟さなかった。

一方、学習指導要領の第六次改訂（1998年）において、目標を「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るととも

*石巻専修大学人間学部人間教育学科

に、集団の一員として自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」²⁾とされた。そして、この目標の達成を「望ましい集団活動の展開と育成」「個人的な資質の育成」「社会的な資質の育成」「自主的、実践的な態度の育成」の4つの観点から迫ろうとしてきた。このように、キャリア教育並びに特別活動がそれぞれ目的を有しながらも、両者には乖離が見られ、時間のみが流れた。

このような中、2011年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」において、『『キャリア教育』とは、『一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育』である。』³⁾と定義付けられた。また、「キャリア」とは、人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねであり、「キャリア発達」とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であることが明らかにされた。さらに、同答申では、「キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、様々な教育活動を通して実践されるものであり、一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。』⁴⁾と説明された。そして、答申の内容や社会情勢とが相まって、キャリア教育の推進を促すに至った。また、学校教育においても卒業後の若者の在り様が社会問題となる中、キャリア教育に取り組む必要性に迫られ、この定義が今日広く採られ学校教育においてキャリア教育の推進が図られるようになった。

3. キャリア教育と特別活動の連動

3.1 キャリア教育の意義と位置付け

キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成することをねらいとしているため、当然、普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施されるものである。したがって、具体的な職業に関する教育を通して行われる職業教育もキャリア教育に含まれる。また、キャリア発達は、児童生徒の発

達段階や発達課題の達成と関わりをもちながら段階を追って進む。そこで、まずキャリア教育は幼児期から体系的に進めることが必要であり、幼児期からの各校種における様々な教育活動を通じ、「基礎的・汎用的能力」の育成を中心に推進するものであるとされている。このように、キャリア教育は、一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す視点からその理念と方向性が示され、教育課程を編成する根幹部分に位置付けられている。

3.2 基礎的・汎用能力の捉え

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」では、「若者の社会的・職業的自立」や「学校から社会・職業への意向」を巡る様々な課題が見受けられる。

また、グローバル化や知識基盤社会の到来、就業構造：雇用慣行の変化等による、教育、雇用・労働を巡る新たな課題も生じている⁵⁾ため、「幼児期の教育から高等教育までを通したキャリア教育・職業教育の在り方をまとめた答申」⁵⁾である。ここでは、社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行を図る際に必要な力が示された。その力の構成要素は、「(ア) 基礎的・基本的な知識・技能、(イ) 基礎的・汎用的能力、(ウ) 論理的思考力、創造力、(エ) 意欲・態度及び価値観、オ 専門的な知識・技能の5つである」とされた。これらの要素は、これからのキャリア教育を推進していく上での柱と考えられるものであり、同時にキャリア教育の推進のみならず学校教育の充実・発展を図る上での重要な要素といえる。そこで、次に小学校において特別活動との連動を図りながら進めるキャリア教育で育成を目指す「基礎的・汎用的能力」を同答申に示された「イ 基礎的・汎用的能力」から明らかにする。まず、2011年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申から児童が将来の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である「基礎的・汎用的能力」の内容を表1に示す。

表1は、「基礎的・汎用的能力」の4つの資質・能力を整理したものである。「具体的な要素」とは、「基礎的・汎用的能力」のキーワードを示した

表1 「基礎的・汎用的能力」とその具体的要素

人間関係形成・社会形成能力	
基礎的・汎用的能力	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力
具体的要素	他者の個性を理解する力 他者に働きかける力 コミュニケーション・スキル チームワーク リーダーシップ等
自己理解・自己管理能力	
基礎的・汎用的能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力
具体的要素	自己の役割の理解 前向きに考える力 自己の動機付け 忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等
課題対応能力	
基礎的・汎用的能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力
具体的要素	情報の理解・選択・処理等 本質の理解、原因の追究 課題発見 計画立案、実行力 評価・改善等
キャリアプランニング能力	
基礎的・汎用的能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力
具体的要素	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 多様性の理解 将来設計 選択 行動と改善 等

ものである。この「基礎的・汎用的能力」の4つの資質・能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」から構成されているが、それぞれ独立した関係にあるのではなく、相互に関連している。

4. 特別活動におけるキャリア教育の背景

小学校学習指導要領の特別活動に関する記述に、明確にキャリア教育を意識した文言が盛り込まれたのは2008年3月に出された『小学校学習指導要領解説 特別活動編』には、「特別活動改訂の要点」として以下の記述がある。

「活動内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」については、「勤労観」を養う観点から、「清掃などの当番活動等の役割と働くことの理解」を加えた。」こうした改訂の背景には、当時のキャリア教育重視の流れがあったと考えられる。1999年12月には、中央教育審議会答申『初等中等教育と高等教育との接続の改善』が出され、その中で、近年の新規学卒者のフリーター志向の広がり、若年無業者（いわゆる「ニート」）の増加、若年者の早期離職傾向（いわゆる「早期離職の七五三」）などを深刻な問題として受け止め、キャリア教育の推進が提唱されていた。さらに、2004年1月にまとめられたキャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告『児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために』において、キャリア教育は学校の全ての教育活動を通して推進すべきものとされたが、同時に特別活動・道徳・総合的な学習の時間は、キャリア教育を進める上で、直接的かつ中核的な取組として最も重要な役割を担うものとされた。ただし、当時のキャリア教育重視の風潮の高まりの割には、小学校学習指導要領の特別活動に関する記述の対応は、今日から見て、かなり限定的であったと言わざるを得ない。直接の記述としては、清掃指導にキャリア教育を絡めることだけだったからである。

その後、2011年1月中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』において、キャリア教育はニート・フリーター対策にとどまらず「生きる力」を育む教育の中心的な役割を担う教育活動として、一層の

小学生のキャリア形成に関する学級活動の役割

充実を求められてきた。そうした中、新学習指導要領の総則において、キャリア教育の充実が明記されたことである。また、特別活動はキャリア教育の「要」と明記された。⁶⁾

5. 新学習指導要領によるキャリア形成について

5.1 特別活動の趣旨から

特別活動の目標は、「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」という三つの視点を手掛かりとしながら、特別活動において育成することを目指す資質・能力の三つの柱に沿って整理された。

特別活動における三つの視点

①「人間関係形成」：集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成するという視点

②「社会参画」：よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点

③「自己実現」：集団の中で、現在及び将来の自分の生活の課題を発見しよりよく改善しようとする視点

以上のことを踏まえ、学級活動では、学習の過程として、「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」については、「集団としての合意形成」を、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」については、「一人一人の意思決定」を行うことを明示された。つまり、2008年3月に出された『小学校学習指導要領解説 特別活動編』の学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」の内容が、新学習指導要領の学級活動(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」と学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」に分けて整理された。⁷⁾

5.2 学級活動の内容から見るキャリア形成

新学習指導要領の学級活動の各内容と関連が比較的多い「基礎的・汎用的能力」を表2で内容(1)(2)と関連させ、表3は、内容(3)と比較的関連が多い「基礎的・汎用的能力」を一覧表にしたものをまとめると次の通りである。

学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」には、「人間関係形成・社会形成能力」

表2 学級活動(1)(2)と「基礎的・汎用的能力」の関連

人間関係形成・社会形成能力	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画
	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 学級や学校における生活をよりよくするための課題を見だし、 <u>解決するために話し合い、合意形成を図り、実践すること。</u>
	イ 学級内の組織づくりや役割の自覚 学級生活の充実や向上のため、 <u>児童が主体的に組織をつくり、役割を自覚しながら仕事を分担して、協力し合い実践すること。</u>
自己理解・自己管理能力	ウ 学校における多様な集団の生活の向上 児童会など学級の枠を超えた多様な集団における活動や学校行事を通して <u>学校生活の向上を図るため、学級としての提案や取組を話し合っ</u> て決めること。
	(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
	ア 基本的な生活習慣の形成 身の回りの整理や挨拶などの <u>基本的な生活習慣を身に付け、節度ある生活に</u> すること。
課題対応能力	イ よりよい人間関係の形成 学級や学校の生活において <u>互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること。</u>
	ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 現在及び生涯にわたって <u>心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</u>
	エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成 給食の時間を中心としながら、 <u>健康によい食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。</u>
キャリアアプランニング能力	

※下線は筆者が、「基礎的・汎用的能力」と関連していると考えた文言

表3 学級活動(3)と「基礎的・汎用的能力」の関連

人間関係形成・社会形成能力	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
自己理解・自己管理能力	ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成 学級や学校での <u>生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそう</u> とするとともに、 <u>希望や目標をもち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしよう</u> とすること。
課題対応能力	イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解 清掃などの当番活動や係活動等における <u>自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。</u>
キャリアプランニング能力	ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用 <u>学ぶことの意義</u> や現在及び将来の <u>学習と自己実現とのつながり</u> を考えたり、主体的に学習する場としての <u>学校図書館等を活用したりしながら、学習の見通しを立て、振り返ること。</u>

※下線は筆者が、「基礎的・汎用的能力」と関連していると考えた文言

の内容が多く、「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」には、「自己理解・自己管理能力」と「課題対応能力」の内容が多いことが分かる。

学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」で目指すキャリア形成は、「自己を生かす」「希望や目標の実現」「自己の役割」「社会の一員としての役割」「学ぶことの意義」「学習と自己実現とのつながり」「自主的な学習」といった内容であり、これらを「基礎的・汎用的能力」の4つの資質・能力(表3)に照らし合わせると、「キャリアプランニング能力」が多く含まれていることが理解できる。このように、学級活動(3)だけでなく、学級活動(1)(2)の内容も「基礎的・汎用的能力」の資質・能力が多く含まれる。したがって、学級活動で育成する資質・能力は、「基礎的・汎用的能力」と共通する部分が多いことが分かり、関連性が高いことが理解できる。

5.3 学級活動(3)の内容と育成する資質・能力

学級活動(3)では、現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標や具体的な方法を意思決定し、なりたい自分を目指すことができるような自己実現を図る力を育てる。そこで、学級活動(3)で育成する資質・能力の例を示すと以下の通りである。

○働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来の見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。

○自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。

○現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

発達段階に即した指導の重点は以下の通りである。⁸⁾

<低学年>この一年でどのようになりたいかについて話し合い、希望や目標をもって生活できるよ

小学生のキャリア形成に関する学級活動の役割

表 4 学級活動(3)題材例一覧

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	
低学年	「1ねんせいで なにができるかな」 「2年生の 1年かん」
中学年	「3年生になって」 「今の自分が明日の自分をつくる」
高学年	「もうすぐ6年生」 「中学校へ、将来へ向けて」
イ 社会参画意識の醸成や働くこと の意義の理解	
低学年	「きゅうしょくとうばん ありがとう」 「学級のために」
中学年	「学級のためのために」 「ピカピカそうじ大作戦」
高学年	「わたしの役割」 「自分の役割って何だろう」
ウ 主体的な学習態度の形成と学校 図書館等の活用	
低学年	「おはなしめいじんになろう」 「たのしさはっ見 学校としょかん」
中学年	「家での学習を見直そう」 「知りたい 調べたい 分かりたい」
高学年	「学校図書館の活用」 「学習をレベルアップしよう！」

※本表は、「楽しい学校生活6年教師用指導書」(文溪堂)を参考に作成⁹⁾

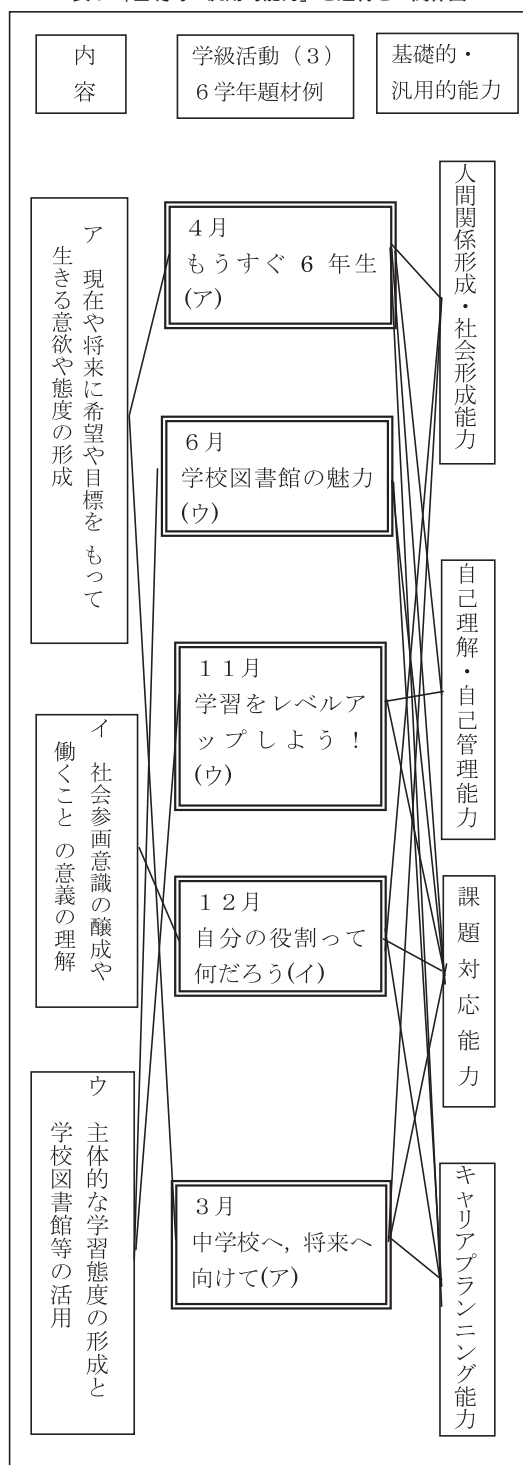
うにする。当番の仕事の仕方を覚えたり、友達と一緒に仕事に取り組んだりできるようにする。学ぶことのよさや大切さについて考え、進んで学習に取り組めるようにする。

<中学年>

自分が目指す姿について話し合い、目標に向かって具体的な解決方法や目標を設定し、取り組めるようにする。自分の役割を果たすことの意味や大切さについて考え、最後までやり遂げるようにする。今の学びが将来につながることを知り、主体的に学習に取り組めるようにする。

<高学年>意思決定したことに粘り強く取り組み、努力してやり遂げた達成感を味わえるようにする。自分の役割や責任、自他のよさを考え、友達と高め合って取り組めるようにする。学習の見通しや振り返りの大切さ、適切な情報の収集や活用の仕方について考え、主体的に学習できるよう

表 5 「基礎的・汎用的能力」と題材との関係図



にする。

題材一覧にまとめると、表4の通りである。

5.4 学級活動(3)の題材例

以上のことを踏まえ、キャリア形成とは何かという問いに、より焦点化が図られてきた。それは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ねを意味している。これからの学びや生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなどして自らのキャリア形成を図ることは、これからの社会を生き抜いていく上で重要な課題なことである。言い換えれば、児童一人一人が将来に向けて希望や目標をもち、その実現のために自らのよさや可能性を生かしながら様々な役割を果たすことを繰り返し、自身の成長を生み出して自分らしい生き方を実現していくことも言える。「キャリア形成」は、特別活動の指導によって育成される集団の質とも関連がある。例えば、一人一人が役割を分担し、その役割を果たせるようにすることが大切である。また、全員が共通理解し、自分の役割や責任を果たすことが大切である。この「役割の分担」と「全員が共通理解」は、キャリア形成において特に重要な要素なのである。

また、学校行事やクラブ活動などにおける活動もキャリア教育に資する重要な活動である。このように、「キャリア形成」は決して学級活動(3)単独で捉えられるものではなく、特別活動における多様な集団活動と関連していることが理解できる。ここで大切なことは、新学習指導要領の特別活動編では、学級活動(2)と(3)の学習過程が共通に示されているが、(3)では適応指導のように自己の問題を振り返り、解決するのではなく、自己のよさやがんばりに気づき、なりたい自分や自分らしく生きることの実現に向けて意思決定できるようにする指導になる。児童が「なりたい自分」や「自分らしさ」を認識できるようにするためには、日常の認め合いの場や特別活動の諸活動が大事な役割を果たす。例えば、特別活動の各活動は、児童の多様なよさや可能性を発揮し合ったり、認め合ったりしやすい場である。だからこそ、振り返りを通じて、自己のがんばりや成長を他者から認められる場を効果的に設定するのである。児童

は、そのような活動を繰り返す中で、将来の目指す自分の姿などを明確にしつつ、その実現に向けて自分のよさや可能性を生かしながらどう実践していけばよいかを学級での話し合いを通して明らかにし、自己の目標を意思決定できるようにしていく。その他、これまで、学ぶことや働くことについて、学級活動(2)では、何をどのように改善すべきかなど内容や方法の指導を中心に行ってきた。

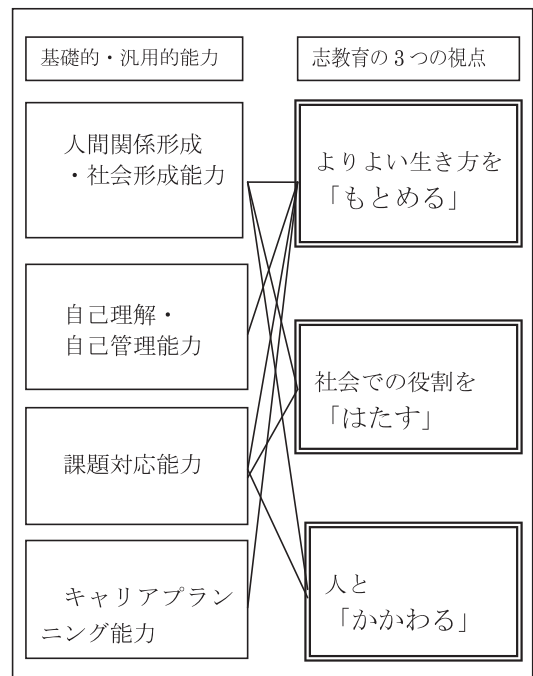
今後は、学級活動(3)として、将来の生き方とも関連付けながら、学ぶことや働くことの意義についても考え、理解できるようにすることが大切になってくる。

6. 「みやぎの志教育」とキャリア形成

6.1 「志教育」との関連

宮城県では、小学校段階から学校全体で実施しているキャリア教育としての「みやぎの志教育」を推進し、社会的自立に向けたキャリア形成のために、『志シート「未来への翼」』（以下、「志シート」）を活用している。ここでは、小・中・高等学校の全時期を通じ、よりよい生き方を「もとめる」、社会での役割を「はたす」、人と「かかわる」の3

表6 「基礎的・汎用的能力」と「志教育」の関連



領域（3つの視点）を通して、社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めることを促す教育である。

表6では、「基礎的・汎用的能力」と「志教育」の3つの視点の関連では、「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応能力」が志教育の3つの視点と関わっていることが分かる。

そこで、「志シート」活用と関連した学級活動(3)の授業実践を、表5「基礎的・汎用的能力」と題材との関係図の題材をもとに勤労観や職業観の育成や職業に関する知識・技能を身に付けるとされるキャリア教育の内容に加え、児童が将来にわたり、自分が社会においてどのような役割を果たすべきか、また果たすことができるかという観点から自分の生き方を主体的に探求するよう促していくことができる。「志シート」については、以下のように記されている。

- 1 このシートは小学校4～6学年で使用します。
- 2 「夢」や「志」、「目標」をもって生活することは大切なことです。学年の始まりの時期に自分の「夢」や「目標」を書いてみましょう。そして、その「夢」や「目標」に向かって一年間を過ごし、年度の終わりの時期に振り返ってみましょう。
- 3 このシートに書いたことを家族と一緒に話し合ってみましょう。
※下線は、筆者が記した。

「志シート」は、学年の始まりと終わりに記載し、途中の振り返りは示されていない。また、家族と一緒に話し合うことが記されているが、学級担任はどのような関わり方をするのかは明確でなく、学校裁量になっていると考えられる。内容については、次の通りである。

- ①大人になったら「こんな仕事がしたい」「こんな人になりたい」
・したい仕事・なりたい人、わけ
・そのためには、こんなことをがんばりたい！
- ②夢や目標をかなえるためにがんばったこと

- ③みんなの役に立った活動・学習
- ④担任から、保護者から

上記の①②は、「志教育」の「よりよい生き方をもとめる」と関連し、③は、「社会での役割をはたす」と関連している。「人とかかわる」については、①②③が相互に関連していることが理解できる。

6.2 ポートフォリオ的な教材の効果

キャリア教育の場面においては、学習や活動の内容を記録し、振り返ることは、教師にとっても、児童にとっても意義がある。キャリア教育の成果に関する評価、例えば、「アンケートやポートフォリオ等」の実施を全体計画に盛り込んでいる学校の児童は自己の生き方や進路を真剣に考えている」という結果が得られている。

また、実際に「生徒理解のための個人資料」として「キャリア教育の記録（ポートフォリオ）や成果」を利用している学級・ホームルーム担任の先生方は、キャリア教育を通じて「生徒は自己の生き方や進路を真剣に考えている」と手応えを感じている。（文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 初版発行 2018年5月キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編 キャリア・パスポートって何だろう？）¹⁰⁾

人は他者や社会との関わりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等様々な役割を担いながら生きている。こうした様々な役割について、人はその関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。こうした役割の連なりや積み重ねがキャリアとなる。キャリアは「ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠」（調査名称：キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 実施時期：2012年10月～11月 調査方法：各都道府県、政令指定都市において所管する公立学校からの抽出）であるとも言われている。児童生徒が自ら「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ことができるためにも、そうした活動を促す組織的・体系的な働きかけと、それを支える教材が不可欠である。

このように考えると、その時々活動を記録し、

蓄積していくポートフォリオは、「様々な役割の関係や価値を自ら判断」し、「取捨選択や創造を重ねる」ための材料と見ることができる。

キャリアが役割の連なりや積み重ねであることに立ち返れば、そうした材料（教材）とそれを活用した教育活動は1回きりで終わるものではあり得ない。日々の振り返りや、学期、学年ごとの振り返り、学校種を越えて、「振り返り」と「見通し」の繰り返しを積み重ねられていくことが大切である。

6.3 ポートフォリオに係る記述

学習指導要領特別活動第2〔学級活動・ホームルーム活動〕3内容の取扱いでは、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の（在り方）生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、（児童）生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」が示されている。

また、中央教育審議会答申（2016年12月21日）では、「子供一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるようにすることが重要である。そのため、子供たちが自己評価を行うことを、教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置付けることが適当である。例えば、特別活動（学級活動・ホームルーム活動）を中核としつつ、「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用して、子供たちが自己評価を行うことを位置付けることなどが考えられる。その際、教員が対話的に関わることで、自己評価に関する学習活動を深めていくことが重要である。」と示されている。

さらに、中央教育審議会答申（2016年12月21日）では、「（前略）…既に複数の自治体において、「キャリアノート」や「キャリア教育ノート」などの名称で、児童生徒が様々な学習や課外活動の状況を記録したり、ワークシートとして用いたりするなど、子供自らが履歴を作り上げていく取組が行われており、こうした取組も、「キャリア・パスポート（仮称）」と同様の趣旨の活動と考えることができる。こうした既存の取組の成果を参考としながら…（後略）」と示されている。

表7 「キャリア・パスポート」の例¹¹⁾

【5年生の例】

- 1 今のわたしについて考えてみましょう。
・自分のよいところ
・好きなこと・今夢中になっていること
・将来の夢や目標
- 2 こんな自分になりたい！！（そのためにすること）
（学習面）（生活面）（家庭・地域）
（習い事・資格・好きなことなど）
- 3 こんな5年生にしたい（そのために自分ができること） 高学年としてがんばること
（児童会・行事・登下校など）
- 4 先生から 家の人などから
- 5 なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふりかえりましょう。
（学習面）（生活面）（家庭・地域）（習い事・資格）
- 6 □学期、どのくらいできたか、○をつけましょう。
（よくできた、できた、あまりできなかった、できなかった）

- ①友達や家の人の話を聞くと、その人の考えや気持ちを考えることができましたか。
- ②自分の考えや気持ちを、相手にわかりやすく伝えようと気を付けることができましたか。
- ③委員会、係、当番活動などで、自分から仕事を分け、力を合わせて行動することができましたか。
- ④好きでないことや苦手なことでも、自分から進んで取り組むことができましたか。
- ⑤調べたいことや知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を集めたり、誰かに質問したりできましたか。
- ⑥何かをするとき、計画を立てて進めることができましたか。
- ⑦自分の夢や目標に向かって、生活や勉強の仕方を工夫できましたか。

- 7 □学期、自分が成長したと感ずること
えいきょうを受けた出来事
- 8 先生から 家の人などから
- 9 来学期の自分へのメッセージ
- 10 なりたい自分にどれだけ近づけたか、ふりかえりましょう。
- 11 この一年、どのくらいできたか、○をつけましょう。
（よくできた、できた、あまりできなかった、できなかった
上記6の項目と同じ＜内容は省略＞）
- 12 この一年を振り返って自分の成長をまとめましょう。
（学習、生活、家庭、習い事など）
- 13 この一年で、自分が成長するうえで影響を受けた出来事と理由
- 14 こんな6年生・最高学年になりたい！！
- 15 先生から 家の人などから

資料：文部科学省「キャリア・パスポート」例示資料等について

小学生のキャリア形成に関する学級活動の役割

表8 「兵庫県キャリアノート」の例¹²⁾

- 【5年生の例】
 <5年生のわたし>
 1 自分の好きなこと、得意なことを書こう。
 2 どんな自分になりたいですか。
 3 しょう来のゆめは何ですか。
 4 なぜ、そう思いましたか。
 5 あなたが今がんばりたいこと、チャレンジしたいことを書こう。
 6 [先生から][おうちの人から]
 <自分のしていることを書こう>
 7 学級や家庭・地いさの中で自分がしていること(係・仕事)を書こう。
 8 周りの人と関わって、うれしいなと思ったことを書こう。
 9 なぜ、そう思いましたか。
 10 みんなのために自分ができることやがんばりたいことを書こう。
 11 [先生から][おうちの人から]
 <5年生でのがんばりをふり返ろう>
 12 自分の気持ちに一番近いものに○をつけましよう。
 (よくできた、まあまあできた、あまりできなかった、ぜんぜんできなかった)
- ①場面や相手に応じた、あいさつや言葉づかいをすることができましたか。
 ②委員会、係、当番活動で、自分の役わりと責任を果たすことができましたか。
 ③思いやりの気持ちをもち、相手の立場に立って、考えたり、行動したりすることができましたか。
 ④勉強や学校生活で、むずかしいことや失敗したことがあっても、くじけずに努力することができましたか。
 ⑤自分の良いところは、どんなところですか。
 ⑥学校や家でのルール、社会のマナー(他人に迷わくを かけない)を守って、生活することができましたか。
 ⑦学校や家での自分の役わりを考え、責任を果たすことができましたか。
 ⑧勉強や活動をして、自分のしょう来は楽しみだと思えることができましたか。
- 13 「自分のこういうところは直さないといけない」と思うのはどんなところですか。
 14 先生や周りの人にほめてもらったり、がんばりをみとめてもらったりしたことで、
 15 一番うれしかったことは、どんなことですか。
 16 あなたのしょう来の夢やしてみたい仕事はどんなことですか。
 17 しょう来の夢や仕事のために、どのようなことをしなければならないと思いますか。
 18 自然学校を終えて、自分が成長したと感じることを書こう
 19 6年生になって、がんばってみたいことはどんなことですか。
 20 [先生から][おうちの人から]

資料：兵庫県教育委員会小学校版キャリアノートモデルより作成

そこで、文部科学省の「キャリア・パスポート」例示資料等が2019年3月29日付け事務連絡で、文部科学省初等中等教育局児童生徒課から各都道府県教育委員会指導事務主管課等に発出されたことを受け、兵庫県教育委員会と秋田県教育委員会で作成している「キャリアノート」の活用例を探ることにした。

6.4 秋田県の秋田わか杉「キャリアノート」『あきたでドリーム (AKITA de DREAM)』作成及び活用事例から

秋田県教育委員会で作成した目的は、県内小・中学校において、児童生徒の発達段階を踏まえながら系統的・継続的に活用することによって、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度の育成の一助となるノートにすることである。

また、高等学校に進学する県内の小・中学生の全員が、小・中学校9年間で蓄積したキャリアノートを高等学校へ持ち上がることによって、小・中・高等学校を貫くキャリア教育を推進する。

作成の方針の一つ目として、県内の各小・中学校でキャリア教育を実践する際に、秋田わか杉「キャリアノート」『あきたでドリーム (AKITA de DREAM)』を核としながら、児童生徒によるまとめや自校の配付物等をはり付けるなどしてポートフォリオを作成することによって、児童生徒自身が小学校から中学校までの9年間を振り返りながら、自己の将来の生き方や就きたい職業を考えることができるようにする。

二つ目として、基礎的・汎用的能力及びふるさと教育のねらいに係る次の5点を共通項目として盛り込みながら、学齢や発達の段階を踏まえた構成となるようにする。

- ①周囲と心を通わせる。
- ②自分を見つめる。
- ③働くことに触れる。
- ④自分の夢やライフプランを描く。
- ⑤ふるさと秋田とのつながりを考える。

(地域、社会、自然、人等)

以上のことを踏まえ、例えば、秋田県大館市の場合、「大館ふるさとキャリア教育」の各校種において、全教育活動をキャリア教育の視点から進めている。例えば、各校の日常の中で行われる振り

表9 秋田わか杉「キャリアノート」の例¹³⁾
(※下線、引用者)

【5年生の例】

<小学5年生のわたし①>

- 1 みんなのために自分ができること
- 2 計画を立ててがんばりたいこと
- 3 「なりたい自分」 (将来、どんな自分になりたいか。)
- 4 計画を立ててがんばりたいこと
- 5 みんなのために自分ができること
- 6 働くこと (仕事) を私はこう考える
- 7 地いきのよさについて感じていること

(他の人にしようかいしたいところ)

- 8 1年間でこうなる宣言 せんげん
- 9 そのためにどんなことにチャレンジするか。
- 10 先生から

<小学5年生のわたし②>

- 11 4月に決めた「こうなる！」宣言は、実現できたか。
- 12 自分のことをふり返ってみる。
(1つに○を付ける。)

(あてはまる、ややあてはまる、あまりあてはまらない、あてはまらない)

- ① みんなのために自分ができることをやっている
- ② 計画を立てて、がんばりたいことに取り組んでいる
- ③ 「なりたい自分」に向かって努力している
- ④ 地いきのよさにふれている
- ⑤ 「働くこと」の大切さ、意味について考えている
- ⑥ (自分で決めたこと)
- ⑦ (自分で決めたこと)

- 13 この1年間で見つけた自分のもち味(自分らしさ)
- 14 この1年間でちょうせんして、学んだこと
- 15 先生から 保護者の方から

資料：秋田県教育委員会秋田わか杉「キャリアノート」より

返り (各教科等の授業やファイルへの活動記録のまとめ等) と、その場面で培われた振り返る力を基盤にしながら「キャリアノート」を書くことが行われている。こうした日々の活動と、ある程度の時間を取ってキャリア・パスポートを書く活動とを、キャリア教育の視点から一体的に捉え、いずれも振り返る力を培うことが重要になっている。

7. 係活動におけるキャリア教育の推進

7.1 係活動の展開を想定した「基本的・汎用的能力」の育成

学級活動の内容は、内容等に応じて話し合い活動、係活動、集会活動と呼ばれる活動形態がとられる。これらはいずれも児童の自発的、自治的な活動を重視する立場に立ち、児童が主体となった活動の実現を目指すものである。したがって、児童が目標を立て、夢を描きながら生きる態度を育み、自らの現在及び将来の在り様や生き方を考えられるような指導の工夫が求められる。

このことを踏まえて、学級活動の各内容と関連が比較的多い「基礎的・汎用的能力」を内容(1)と関連させたところで、係活動の展開を想定した「基本的・汎用的能力」の育成を図る実践の方法を考えることにする。その際、「志教育」の3つの視点である「よりよい生き方をもとめる」、「社会での役割をはたす」、「人とかかわる」を基本にしながら、学級活動の内容(3)の指導から育まれると考える資質・能力を踏まえるものとする。ただし、ここで取り上げる係活動は学級という一定の集団の枠内での活動であるため、異年齢や他学級との関わりなどから生まれる効果や課題には触れないものとする。児童の発達段階に即した指導のめあてや課題が考えられるが、同様の扱いをする。特に、学級活動の内容(3)には直接触れないものの、常にその意図を念頭に進めることとする。

キャリア教育の推進を図る上での係活動を展開する留意点としては、係活動は、当番以外の仕事で自分たちにできることをみんなで話し合って役割分担する形態をとる。そして、それは楽しく豊かな学級生活の実現に向けて児童が活動内容を創意・工夫するところに特徴がある。さらに、係活動の意義は、体験活動を通して達成感や満足感を

得ることができる点に見いだすことができる。そこからは、児童が自己の存在が意識でき、自信ややる気等を育んでいくことができる。また、実践や体験を通して育まれる関わり感や達成感、次の活動に向かわせるエネルギーとなり、自己肯定感や自己有用感を高めることにつながる。すなわち、この一連の事柄はキャリア教育の推進・充実を図ることにほかならない。

しかし、これまで不十分だったことは、キャリア教育の視点からの社会的・職業的自立のために必要な「基礎的・汎用的能力」を育てるという取組である。係活動が果たす有用性を考えた場合、取組の在り方を検討することは、有意義であると考えられる。

7.2 係活動と関連させた「志教育」

まず、係を設置する際に教員が留意すべき点だと考えるものを挙げると次のような点である。¹⁴⁾

- ・児童が必要とする係である。
- ・継続的に活動できる。
- ・成果が学級に反映される。
- ・複数で協力し合って活動できる。
- ・創意工夫が生かせる。
- ・提出物や忘れ物をチェックさせるなど、管理的な仕事の補助にならない。
- ・児童の負担過重にならない。

具体的な授業実践では、学級活動(3)「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」に基づき、6学年の題材「自分の役割って何だろう」により、学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」の係活動と関連させて「志教育」につなげることにした。

「係活動発表会」の実施

- ① 係活動の充実のため、学級会で「係活動発表会をしよう」や「係活動を充実しよう」などに取り組む。
- ② 係ごとに取組を紹介し合って活動を認め合ったり、発表内容を工夫したりすることで、互いの係のがんばりに気付いたり、他の係の活動のよさを取り入れたりする機会になる。そのことにより、さらに創意工夫

して取り組み、学級生活をより豊かにしようという活動意欲の向上につながる。

「係活動コーナーの活用」

各係の活動予定や係からのお知らせを掲示できる「係活動コーナー」を活用して、自主的に情報発信ができるようにする。

「活動の振り返り」

- ① 月ごとや学期ごとなどに、活動のめあてに合わせて活動を振り返るようにする。
- ② カードなどを活用し、振り返ったことを次の活動に生かすことができるようにする。

「活動の振り返り」では、各係のよさやがんばりをメッセージカードに書いて交換し合ったり、帰りの会で発表し合ったりすることによって、活動への満足感を高めることができる。そこで、「志シート」を活用して、「基礎的・汎用的能力の育成」の視点から活動の仕方のよさにも目が向くように、教師が関わることも大切であり、次の活動へつなぎ、意識付けを図ることが大切である。

「志教育」の3つの視点との関連をまとめると次の通りである。

表10では、「志教育」の3つの視点と大きく関連しているのが、「係活動発表会」と「係活動コーナー」である。双方ともに、児童が他者と主体的に取り組み、対話を重ねながら合意形成を得て伝え合う活動である。伝えることによって、他者から評価され、さらに、活動が深まる。他者から評価された活動は、自信につながり次の活動に生かされる。「活動の振り返り」は、よりよい生き方を「もとめる」という「志教育」の視点に繋がる。この一連の活動のプロセスを「キャリアノート」等のポートフォリオを活用しながら、キャリア形成の実現に繋がるものと確信できる。

このように、主体的に児童が自分の置かれている状況を受け止め、主体的に行動し、他者と協力・協働しながら社会に参画していくことや、課題を

発見し、見通しをもって計画を立て、自分の果たすべき立場や役割を意識し、行動できるように指導することが必要である。

このことが役割分担や生きること意義を理解させ、望ましい勤労観・職業観を育むことにつながるのである。また、小学校段階でのこれらの取組は、中学校での主体的な進路設計を促すとともに、自らの将来に向けたその選択や決定を育む基盤となる。さらに、係活動では、絶えず取組を振り返ることが重要である。

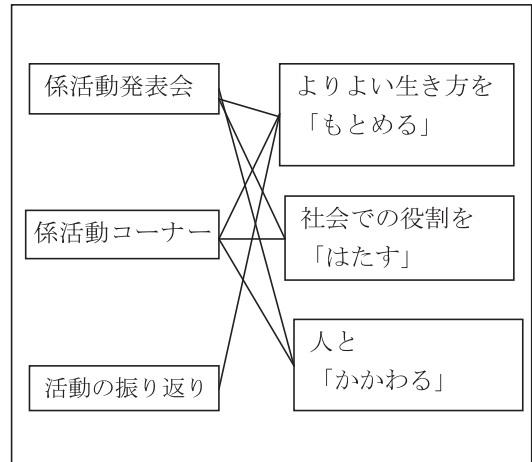
この際必要なことは、キャリア教育の視点から活動を振り返るということである。具体的には、キャリア教育を通して育成することが期待される「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力及び「志教育」で育む3つの視点から活動を捉え直し、評価活動を行うことになる。このとき、小学校段階においては、「志シート」の内容を「キャリアノート」と関連させた活用方法に着目すべきである。

8. おわりに

よりよい生き方を求めた教育の中で、特別活動が中核的に果たす役割を明確にするため、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート」）を作成することが求められている。ポートフォリオとは、「自身の学習、スキル、業績を実証するためのあらゆる成果を、ある目的のもと、組織化・構造化し、まとめた収集物である」（ジョーンズ&セルトン、2006）と定義され、児童の新たな学習等への意欲の喚起や将来の生き方を考える活動を行う中で、記録し蓄積する教材の活用することが求められている。この「記録し、蓄積する教材」がキャリア教育におけるポートフォリオ（キャリア・パスポート）を宮城県内の小学生から高校生まで活用している「志教育」における「志シート」を地域・学校の実態に応じて柔軟にカスタマイズすることが必要であり、今後、望ましいキャリア形成を促すためのポートフォリオの活用が期待されている。

したがって、本研究から、今後、小学校の段階で行うキャリア教育にとって必要なポートフォリオとは何かを明らかにすることであり、その活用

表 10 係活動と「志教育」の3つの視点



と在り方を検討することは今、重要ではないだろうか。¹⁵⁾

また、キャリア教育の充実・推進を図ることは、児童一人一人が自らの将来の社会的・職業的自立に向けて現在と将来をつなげ、主体的、自治的に常に目的と意欲をもって学ぶことができる道筋を歩めるようにすることである。

これまで、小学校においてキャリア教育が根付かなかった背景には、狭義の「進路指導」と混同したり、職業に関する理解を図るための活動とみなしたりしてきたことがあった。まずはこの経緯と反省を踏まえることが求められる。

小学校においてキャリアの推進・充実を図る実践的方法の一つとして特別活動と連動させることは必要なことであり、とりわけ学級活動においてその特質を生かし、役割を果たしながら、「志教育」に取り組むとともに、「基礎的・汎用的能力」の育成に力を入れることが有効であるといえる。今後とも、今を生きる児童が将来において主体的な社会参画を果たし、充実した人生を切り拓いていく基盤となるキャリア教育に取り組んでいくことが大いに求められる。

参考・引用文献

- 1) 中央教育審議会：「初等中等教育と高等教育との接続の改善について 平成 11 年 12 月 16 日」, p.39 (1999)
- 2) 文部省：「小学校学習指導要領 特別活動 平成 10 年 12 月」, p.95 (1998)

小学生のキャリア形成に関する学級活動の役割

- 3) 中央教育審議会：「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申 平成 23 年 1 月）」, p.16 (2011)
- 4) 3)と同書, p.16
- 5) 3)と同書, p.16
- 6) 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編』東洋館出版社, p.9 (2018)
- 7) 6)と同書, p.58
- 8) 6)と同書, p.59
- 9) 「楽しい学校生活 6 年教師用指導書」文溪堂, p.33
- 10) 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 初版発行 2018 年 5 月キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編キャリア・パスポートって何だろう？)
- 11) キャリア・パスポート例示資料 文部科学省
- 12) 兵庫県教育委員会小学校版キャリアノートモデルより引用
- 13) 秋田県教育委員会秋田わか杉キャリアノートより引用
- 14) 特別活動指導資料 みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）文溪堂, p65
- 15) 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター発行のキャリア教育リーフレットシリーズ・キャリア・パスポート特別編 1 データに基づくポートフォリオの意義や実践事例